

- 7月の夏休みシーズンに入りますと、全国各地で花火大会が華々しく開催されます。揖斐川第二出張所管内でも、7月26日（土）に、揖斐川河畔で、「第58回岐阜新聞大垣花火大会」の開催が予定されています。今回、花火に関する雑学を含めて、この地域の花火大会の概要を紹介します。

■日本で最初に花火を見たのは戦国武将か？

- 日本において、現在のような鑑賞用の花火が登場したのは江戸時代に入ってからです。花火鑑賞の古い記録としては、天正17年（1589）に伊達政宗が鑑賞したという記録や、慶長18年（1613）、イギリス国王ジェームス1世の使者が駿府城を訪れた際に、徳川家康に花火を見せたという記録が有名です。これを機に、花火は将軍家をはじめ諸大名の間で流行し、江戸の大川端（隅田川）の下屋敷では年中行事となり、花火の流行は江戸の町民にも広がり、この頃には花火師や花火売りが登場します。

公益社団法人 日本煙火協会 「花火入門」資料より



2尺玉カムロ菊（第57回大垣花火大会より）
写真：岐阜新聞社提供

■花火のあの掛け声の代名詞『たまや〜（玉屋）』の悲しい事実！



- 【川開きと花火その由来について】
- 我が国において、歴史的記録に残る最も古いのは両国の花火です。享保17年（1732）の大飢饉で多くの餓死者が出て、更に疫病が流行し国勢に多大な被害と影響を与えました。幕府（8代将軍吉宗）は、翌18年（1733）5月28日（旧暦）犠牲となった人々の慰霊と悪病退散を祈り、隅田川で水神祭を行いました。この時に、両国橋周辺の料理屋が公許（許可）により花火を上げたことが由来とされています。
- 出典：第37回 隅田川花火大会HPより

- 打ち上げ花火の掛け声と言えば、「たまや〜（玉屋）」「かぎや〜（鍵屋）」が有名ですが、この掛け声は、両国川開きで人気を競った花火師の屋号に由来しています。そもそも玉屋は鍵屋で番頭を務めていた腕のよい職人・清七が独立し、暖簾分けしてもらった分家。屋号も、鍵屋が守護神としていた鍵屋稲荷の祠に祀られている狐の一方が「鍵」を、もう一方が擬宝珠の「玉」を持っていることに由来しています。
- 以降、玉屋は1810年から両国の川開きで鍵屋とともに花火製作を担い、川の上流を「玉屋」、下流を「鍵屋」が担当し、二大花火師の競演となっていました。これを応援するための掛け声が「たまや〜」「かぎや〜」だったのです。ところが、1843年に出した火事が原因で玉屋は江戸を追われることになり、人気花火師だった玉屋は、かけ声は残れど一代限りで失脚しまいました。一方、鍵屋は、現在に至るまで15代にわたって続いています。

■花火大会の開催地と『徳川家康』の関係は？

- 花火に関しては、特に江戸での記録が多く残っていますが、これ以外の地方で花火が製造されなかったわけではありません。特に、外国と交易のあった九州、長野、愛知などでは、江戸時代から花火が作られていました。特に、三河国岡崎地方（愛知県岡崎市付近）は徳川家康の出身地ということで、火薬に関する規制が緩やかであり、江戸時代から町人が競って花火を製造しました。

2014 年現在も岡崎周辺におもちゃ花火問屋が多いのはこの名残だと言われています。これ以外の日本国内での花火の主な産地は長野県、新潟県、愛知県、茨城県で、徳川家にゆかりのある地方が多いと言われています。

出典：Wikipedia（花火）より



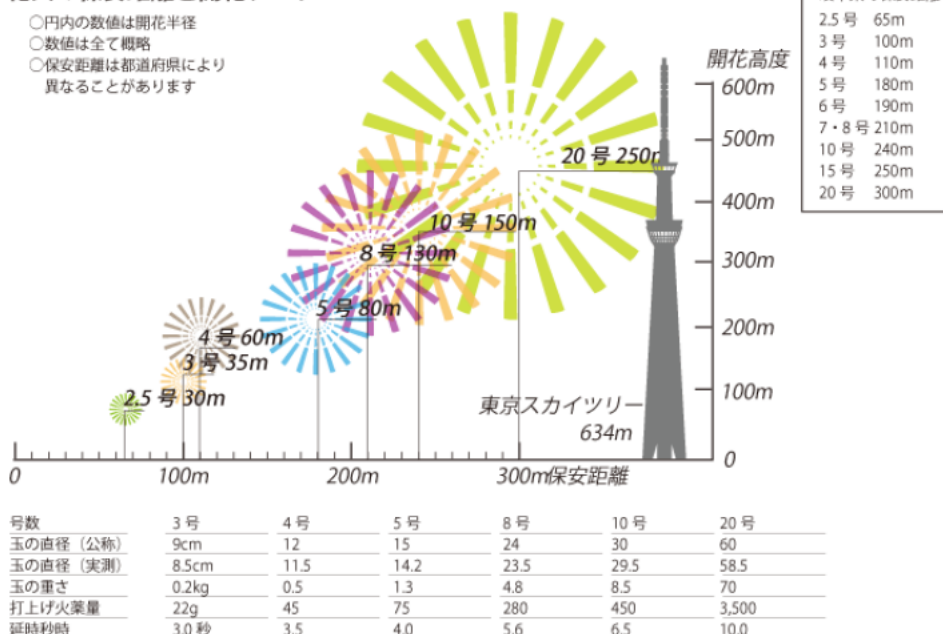
徳川家康公銅像
（愛知県岡崎市：岡崎城）

■打ち上げ花火の保安距離と開花データ

- 花火大会で打ち上げることができる最大の花火の大きさは「**保安距離**」によって決められています。保安距離とは、花火打上場所から観客、周辺付近の建物までの安全のための距離を言います。この保安距離は、各都道府県によって違います。より広い保安距離を確保できる場所では、大きな花火を打ち上げることができますが、市街地などの人口密集地では花火の玉の大きさや打ち上げ方が制限されてきます。

花火の保安距離と開花データ

- 円内の数値は開花半径
- 数値は全て概略
- 保安距離は都道府県により異なることがあります



出典：高木煙火株式会社 ホームページ記事より
※高木煙火株式会社は、岐阜新聞大垣花火大会の打ち上げ業者。

■花火大会が、『海・川』など水辺で開催される理由は？

- 花火大会の多くは、海・川など水辺で開催される場合がありますが、その理由として以下のことが考えられます。

【理由】

1. 人が集まりやすく、安全で広い場所が確保できること。
2. 視界が広く、何処からでも見られる。
3. 保安上の距離が確保しやすく、近隣住民の理解を得やすい。
4. 万が一の時の消火に役立つため、消防や警察の許可が得やすい。
5. 水面に花火が映り綺麗に見える。 etc



■2014全国の花火ランキング

- 全国最大級の規模を誇る諏訪湖湖上花火大会は、夏を彩る諏訪の風物詩で4万発の花火が夜空と湖上に光の華を咲かせ、四方の山々に花火の音がこだまし迫力満点です。次いで、7月下旬から8月初旬にかけて2週連続で行われる長良川の花火大会です。河川敷で打ち上げられる3万発の花火は、金華山をバックに川原が観覧席という最高のロケーションで大観衆を魅了します。
- 日本において、一番大きな花火を打ち上げるのは、新潟県小千谷市で開催される「片貝まつり」です。花火玉の大きさは4尺玉で直径120cm、重量約420kg。上空で開花した時の直径は約800mにもなるようです。世界最大の打ち上げ花火として、ギネスブックにも登録されています。
- ランキング表から分かるように、東海地方は徳川家にゆかりのある地方も多く、打ち上げ数や最大号数など大規模な花火大会が多く開催される傾向があります。

【打上数ランキング】

順位	都道府県	大会名	開催場所	打上数
1位	長野県	諏訪湖祭湖上花火大会	諏訪湖	4万発
2位	岐阜県	全国花火大会	長良川	3万発
2位	岐阜県	全国選抜長良川中日花火大会	長良川	3万発
4位	静岡県	ふくろい遠州の花火	原野谷川親水公園	2.5万発
5位	茨城県	古川花火大会	古川ゴルフリンクス	2.5万発
6位	大阪府	教祖祭PL花火芸術	光丘カントリー倶楽部	2.5万発

【大玉ランキング】

順位	都道府県	大会名	開催場所	大玉
1位	新潟県	片貝まつり	浅原神社	4尺
2位	愛知県	蒲郡まつり	竹島ふ頭	3尺
2位	北海道	釧路大漁どんばく花火大会	釧路港	3尺
2位	秋田県	港まつり 能代の花火	能代港	3尺
2位	新潟県	長岡まつり大花火大会	信濃川	3尺
2位	石川県	和倉温泉夏花火	和倉港	3尺
2位	鹿児島県	枕崎港まつり花火大会	枕崎港	3尺
	・	・		
	・	・		
	・	・		
	岐阜県	大垣花火大会	揖斐川	2尺

HPで公開されている各花火大会の諸元をもとに独自集計（H26.6現在）

■木曽三川で開催される主な2014花火大会の概要について

- 木曽三川（木曽川・長良川・揖斐川）においては、7月下旬から8月中旬頃の夏休み期間にかけて開催される花火大会がほとんどです。長良川は上述のとおり、打ち上げ数では全国有数の規模を誇り、知名度と交通の便の良さで、毎年、多くの人出で賑わいます。一方、木曽川や揖斐川は、川幅が広く、一定規模の保安距離が確保できる利点を活かし、東海地区最大級の20号玉（2尺玉）を打ち上げる花火大会もあります。花火大会はそれぞれの地域で長い歴史や地元ならではの趣向イベントもありますので、それぞれの特徴を知って、花火大会を楽しんではいかがでしょうか。

2014開催日	開催回数	大会名	開催場所	河川名	打ち上げ数	最大号数	昨年の人出
7月26日（土）	18回目	さかほぎ祭り2014爆裂大花火	坂祝町	木曽川	3千発	4号玉	約1万人
7月26日（土）	58回目	全国選抜長良川中日花火大会	岐阜市	長良川	3万発	4号玉	約30万人
7月26日（土）	58回目	岐阜新聞大垣花火大会	大垣市	揖斐川	3千発	20号玉	約10万人
7月26日（土）	—	桑名水郷花火大会	桑名市	揖斐川	1万発	20号玉	約18万人
8月02日（土）	69回目	全国花火大会	岐阜市	長良川	3万発	4号玉	約35万人
8月03日（日）	—	いびがわの祭り「ありがとう花火」	揖斐川町	揖斐川	6.5千発	10号玉	約7万人
8月09日（土）	21回目	根尾川花火大会	本巣市	根尾川	6千発	8号玉	約8万人
8月10日（日）	35回目	日本ライン夏祭り納涼花火大会	犬山市	木曽川	3千発	3号玉	約27万人
8月14日（木）	—	濃尾大花火	一宮市 羽島市	木曽川	5千発	20号玉	約23万人
8月15日（金）	—	笠松川まつり	笠松町	木曽川	2.3千発	4号玉	約3.5万人

HPで公開されている各花火大会の諸元や各主催者に聞き取りにて独自集計。（H26.6現在）



スターメイン（第57回大垣花火大会より）
写真：岐阜新聞社提供

■『第58回岐阜新聞大垣花火大会』の開催に向けて準備進む！

①安全運営へ向け、意見交換&現地視察を開催

- 6月6日（金）、「第58回岐阜新聞大垣花火大会」に向け、現地視察会を同市東町の揖斐川河畔で行い、関係者が安全運営に向け意見交換を交わしました。
視察会には、大垣市、同市観光協会、県警本部、大垣署、大垣消防本部、安八町、国土交通省揖斐川第二出張所、高木煙火、岐阜新聞社ら約30名が参加。花火の打ち上げ現場で計画を確認した後、当日の交通規制や立ち入り禁止区域、露天の安全管理、警備体制などを確認しました。
- 「第58回岐阜新聞大垣花火大会」のポスターが完成し、市内外の各所に300枚が張り出され、大会ムードを盛り上げています。ポスターは、昨年のクライマックスを飾った2尺玉が綺麗に開いた写真を大きく使い、迫力十分なデザインです。



②花火玉の天日干し

- 6月下旬、大垣市島町の高木煙火の工場では、花火玉の天日干し作業が急ピッチで進められています。天日干し作業は、火薬が詰まった花火玉の周囲に紙を張った後、表面ののりを乾かす作業。幾重にも紙を張るため、作業は何度も繰り返される。屋外の台には、3～5号程度まで大小さまざまな玉が並び、太陽の光をいっぱい浴び、夜空に華麗に打ち上げられるのを心待ちにしているように見えます。



天日に干される花火玉 6月26日撮影
(大垣市島町、高木煙火)

③‘迫力’2尺玉 ドーンと披露

- 花火大会をPRするため、大垣市役所の1階ロビーに花火玉の実物大模型が展示されています。



花火玉の実物大模型の展示状況 7月14日撮影

④会場周辺の草刈り

- 国土交通省揖斐川第二出張所は、毎年、梅雨期と台風期に入る前の年2回、堤防の変状を確認することを目的とした堤防除草工事を実施しています。
花火大会の安全面からも草が伸び放題の状態では花火観覧者の方々をお迎えすることは相応しくありませんので、河川管理上、支障がない範囲内で、堤防斜面の土手に生い茂る背丈の高い草は、花火大会の直前に行うなど、会場の周辺整備に協力をしています。



堤防斜面の刈草完了状況 7月14日撮影 (大垣市東町)